令和５年度

紀要

仙台市中学校長会

目　　次

巻頭言　仙台市中学校長会長　本木　一昭　・・・・・・・・・・　1

令和５年度仙台市中学校長会活動方針　・・・・・・・・・・・・・　2

１　各部の活動概要

（１）総　務　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

（２）研　究　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

（３）教育課題部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

（４）研　修　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

（５）人　事　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

（６）情　報　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

（７）行 財 政 部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

（８）生徒指導部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

２　調査研究等報告

（１）教育課題部
・「高校入試に関するアンケート調査」　・・・・・・・・・・・・・・　１２
・「授業改善に関するアンケート調査」　・・・・・・・・・・・・・・　１６
（２）研修部（研修会の報告）
・「GIGA スクール構想の実現」　・・・・・・・・・・・・・・・　２０
・「若手教員の育成･支援」　・・・・・・・・・・・・・・・　２２
・「不登校対策の現状と課題」　・・・・・・・・・・・・・・・　２４

＜巻頭言＞

多角的な視点を大切にして、創造と貢献を目指す

仙台市中学校長会長　　本木　一昭

令和５年５月８日から新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行したことにより、各種教育活動は、従来の規模や方法等で実施することができるようになりました。学校に生徒たちの元気な声や、生き生きと活躍する姿が戻ってきたことを大変うれしく思います。また、今年度までの３年間の全国学力・学習状況調査の結果からは、本市の中学生は、全ての教科で大都市の中でも上位の成績を維持していることが分かっています。コロナ禍にあっても「学びを止めない」ために各学校の先生方が努力してきた成果だと、誇りに思っているところです。

さて､本会は４月に｢ともに悩みを分かち合い、知恵を出し合い、支え合い、創造と貢献を目指し合う仙台市中学校長会」というスローガンを継承しつつ、多角的な視点、すなわち、物事の全体像を見渡す「鳥の目」の視点、通常よりもはるかに細かいところを注意深く掘り下げていく｢虫の目」の視点、潮目を読む（時代の変化をとらえて先を読む)「魚の目」の視点を大切にしながら、学校経営に全力を尽くしていくことを誓い合いました。そして、様々な制約の中進めてきた教育活動を、単にコロナ禍前の姿に戻すのではなく、学校や地域の実態や時代の要請等を踏まえた真に必要なものへと、創造的に改革していくことを目指して取組を進めてきました。

そのような中､6 月に開催された第 73 回東北地区中学校長会研究協議会福島大会は、昨年度に引き続き参集及び Web 参加によるハイブリッド方式で開催されましたが､5 月の第 74 回全日本中学校長会総会、10 月の第 74 回全日本中学校長会研究協議会大分大会、11 月の第 80 回大都市中学校長会連絡協議会静岡大会は、いずれも参集形式での開催となりました。中学校教育が当面する各種課題に関して、各地域や学校における成功事例や先進的な取組を共有するとともに、各地の校長先生と膝を交えて解決策などについて協議する機会を持てたことは、大変有意義なことであったと考えています。オンラインでは得られない学びがあることを、改めて実感する機会ともなりました。

また、11 月に開催した第 10 回仙台市中学校長会研究協議会では､｢持続可能な教育活動・学校教育を目指して～これからの部活動の在り方～」をテーマに、４名の校長先生からの実践発表とパネルディスカッション、それを受けてのグループ協議が行われました。専門性や意思にかかわらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することや、少子化の進展に伴い、部活動を従来の規模・体制で運営することが難しくなってきている中、持続可能な部活動運営体制の構築の必要性について、認識を深めることができました。本市の部活動の地域移行はまだ緒に就いたばかりであり、仙台市中学校長会として、課題の整理や解決策の検討等に真摯に取り組み、改革の歩みを着実に進めていくことが重要であると考えています。

働き方改革やいじめ・不登校対策、生徒の多様性に応じた指導の充実、震災の教訓を生かした防災対応力の育成、キャリアステージに応じた人材育成など、対応が求められる課題はほかにもたくさんあります。また、令和の日本型学校教育が目指す、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」の実現と、学習指導要領の着実な実施による「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善については、学校の「本分」として、校長のリーダーシップの下、不断の努力を重ねていかなければなりません。今後も、会員相互の連携・協力を強固なものとしながら、多角的な視点を大切にして難局を乗り越えていくことを切に願っています。

末筆となりましたが、本会の運営に御協力、御尽力いただきました会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。次年度以降も、本会がますますの発展を遂げますことを祈念し、結びといたします。

令和５年度 仙台市中学校長会活動方針

今日，我が国では，少子高齢化及び国際化，高度情報化，そして，持続可能な社会の実現など，諸課題に対応するため，様々な改革が進められている。このような中，我が国の教育には，豊かな人間性と創造性を育むとともに，国際社会に貢献できる国民の育成が求められている。

私たち校長は，中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し，全日中教育ビジョン『学校からの教育改革』の理念を踏まえ，「仙台市教育構想 2021」に基づく学校づくりを推進しなければならない。また，東日本大震災から12 年が経過したことから，「復興」から「新生」への取組を全力で果たさなければならない。さらに，喫緊の課題として，新型コロナウイルス感染拡大の状況下，引き続き感染防止策を講じながらいかに生徒の学びを保障するかという課題意識を共有し，密なる情報交換等を通して，教育活動を充実するための方策を模索・実践していく必要がある。

仙台市中学校長会は，校長としてのこれらの職責を自覚し，本市中学校教育のさらなる充実・振興を目指して，本会会則及び次の重点項目に基づき本会の運営に当たる。

１　校長会の機能を一層充実させ，活動の活性化に努める。

⑴　校長相互の連絡・情報交換，及び連携を強化する

⑵　学校経営能力向上のための研究協議及び研修を充実する

⑶　宮城県中学校長会及び宮城県・仙台市小学校，公立・私立高等学校の校長会との連携を強化する

⑷　行政や関係諸機関との連絡・調整及びそれらへの積極的な提言を行う

⑸　各部における諸活動を積極的に展開する

⑹　市民・保護者へ積極的に情報を発信する

２　学習指導要領に基づき，創意ある教育課程を編成・実施し，生きる力を育む教育の推進に努める。

⑴　社会に開かれた教育課程の実現の理念の下，学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」を推進する

⑵　生きて働く「知識・技能」の習得，未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成，学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱に基づく資質・能力を育成する

⑶　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する

⑷　教育課程の改善を図るための学校評価の充実を図る

３　「仙台市教育構想 2021」に基づき，子どもたちの可能性を広げる教育を推進する。

⑴　未来の創り手となるために人や社会との関わりを大切にしながら，将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育む自分づくり教育を推進する

⑵　他者との関わりや，様々な活動を通して健全な心の育成を図るとともに，命と心を守り育む教育を推進する

⑶　「仙台市健やかな体の育成プラン 2017」を基に，望ましい部活動運営や食育等の観点を重視した健やかな体の育成を推進する

⑷　「仙台市確かな学力育成プラン 2023」を基に，たくましく生きる力を育みながら，基礎的知識・技能，活用する力，主体的な学習態度の確実な習得・育成を図る

⑸　「仙台市学校教育情報化推進計画」を基に，ICT を積極的に活用し，他者と協働し，自ら学び，自己の学びをデザインする力の涵養を図る

(6)　安心を創る仙台版防災教育を推進し，震災の教訓を生かした防災対応力とともに，危機対応力を育成する

(7)　「仙台市特別支援教育推進プラン 2023」を基に，障害のある児童生徒に適切な指導支援を図るとともに，日本語指導が必要な生徒に対しての支援の充実を図り，自立と共生社会の実現に向けた取組を推進する

(8)　教職員がより生徒に向き合うことができる体制づくりと働き方改革を実現する

(9)　教科における専門性や教育課題に対応する指導力を高めるとともにコンプライアンスの意識の高揚を図る

(10)　小中連携を軸に地域や家庭と積極的に連携するとともに，コミュニティ・スクール（学校運営協議会）等を通し地域と共に歩む学校づくりを推進する

4　当面する教育課題の解決に努める。

(1)　仙台市いじめ防止等に関する条例や学校いじめ防止基本方針等に基づく，いじめを見逃さない，許さない学校体制の構築を推進する

(2)　不登校の未然防止と組織的な支援体制を強化する

(3)　自己肯定感を高め豊かな心の育成を中核とする生徒指導を推進する

(4)　教育活動における ICT 活用を推進するため，研修等の条件整備を図る

(5)　OJT をはじめとした校内研修や学校職員評価等による教職員の力量向上を図る

(6)　安全･安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域との連携を強化する

(7)　防災意識の高揚と防災教育・防災体制の一層の充実を図る

(8)　震災による心のケアの継続，及び自助・共助の意識の高揚を図る

(9)　学校業務の見直しや校務処理の改善･効率化などによる教職員が子どもに向き合える環境づくりと教職員の働き方改革を一層促進する

(10)　学校職員の不祥事根絶を目指したスクールコンプライアンス校内研修を強化する

(11)　新型コロナウイルス感染対策の徹底と教育課程の工夫，生徒の主体的な衛生管理と予防意識の育成を図る

(12)　部活動の地域移行の円滑な実施に向け，関係機関，団体等と連携を図る

5　多様な教育活動を推進するため，教育諸条件の整備・充実を期する。

(1)　教職員定数の改善及び主幹教諭の定数外配置と配置拡大を要請・協議する

(2)　免許外教科担任の解消や少人数指導の充実及び特別支援教育充実のための非常勤講師等の拡充を要請・協議する

(3)　教職員の人材育成及び特色ある学校づくり，コミュニティ・スクールの効果的な運用を図り，学校と地域の連携・協働の一層の充実を目指す

(4)　施設･設備の充実と教材備品の整備を要請・協議する

(5)　地域と共に歩み，特色ある学校づくりのための条件整備に関する校長裁量の拡大と教育振興費の増額を要請・協議する

6　勤務条件等の整備と待遇改善の一層の充実を期する。

(1)　「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請する

(2)　諸手当を含む給与体系の改善を要請する

(3)　定年延長及び再任用制度等の適切かつ円滑な運用並びに退職後の生活設計に関する体制の整備・改善を要請する

１　各部の活動概要

（１）　総　務　部

（２）　研　究　部

（３）　教育課題部

（４）　研　修　部

（５）　人　事　部

（６）　情　報　部

（７）　行 財 政 部

（８）　生徒指導部

総　務　部

部長　　久　世　達　也

1　活動目標

仙台市中学校長会の活動方針や宣言・決議を踏まえ，様々な要望や提言の取りまとめを行い，活動全体計画及び各部会間の連絡調整を図りながら，仙台市中学校長会の能率的かつ円滑な運営に努める。

2　活動内容

(1) 各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ，窓口となる。
　① 仙台市教育委員会等への提言の作成及び渉外に関する事項
　② その他の事項
(2) 年度の活動目標・行事予定・事業計画等を立案する。
(3) 例会や各種会議等の準備や計画を立案する。
(4) 各部会間等の連絡調整に当たる。
(5) 全国中学校長会・東北地区中学校長会・大都市中学校長会の情報を的確に把握し，会員に伝達する。
(6) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い実施する。
(7) 市中学校長会総会要項を編集し，総会の運営を行う。
(8) 中高(公・私)連絡会に関する事項。
(9) 県市連絡協議会に関する事項。
(10)その他。

3　活動の概要

(1) 臨時校長会〔H 白萩〕
　4 月 3 日(月)
　会務分掌，各部活動計画等の確認
(2) 仙台市中学校長会総会・研修会〔H 白萩〕
　4 月 27 日(木)
(3) 学校教育の充実に関する小中合同研修会〔長町中〕
　7 月 27 日(木) 提言書素案の検討
(4) 教育懇談会〔上杉分庁舎局 1 会議室〕
　8 月 3 日(木)　主担当：中学校
　「仙台市小・中学校教育の充実について(提言)」
(5) 中高(私)連絡会〔H 白萩〕
　9 月 1 日(金)話題提供・意見交換並びに高校からの情報提供
(6) 中高(公)連絡会〔H 白萩〕
　9 月 8 日(金)話題提供（入試の状況、特別支援教育)・意見交換
(7) 第 73 回東北地区中学校長会研究協議会福島（会津若松）大会〔オンライン〕
　接続等連絡調整
　6 月 30 日(金)(会長現地参加)
(8) 第 74 回全日本中学校長会研究協議会大分（別府市）大会
　県校長会との連絡調整
　10 月 26 日(木)27 日(金)(7 名参加)
(9) 第 80 回大都市中学校長会連絡協議会静岡大会〔ホテルアソシア静岡〕
　宿泊等連絡調整
　11 月 9 日(木)10 日(金)(9 名参加)
(10)県・市連絡協議会　　担当：宮城県
　① 5 月 12 日(金)
　② 9 月 15 日(金)
　③ 1 月 18 日(木)
(11)その他
　各例会時における準備等
　各部，事務局との連絡調整等

＜総務部員＞

部　長	久　世　達　也	(錦ケ丘中)
副部長	堀　部　登美子	(柳　生　中)
部　員	齋　藤　健　造	(愛　宕　中)
部　員	大　倉　秀　之	(生　出　中)
部　員	遠　藤　　晋	(中　野　中)
部　員	根　本　光　一	(沖　野　中)
部　員	西　城　祐　子	(将監東中)
部　員	洞　口　　乃	(鶴が丘中)

研　究　部

部長　　齋　藤　亘　弘

1　活動目標

中学校の教育活動に関する現状や課題を把握し，特色ある事例や研究事例を収集，分析，発信することを通し，各校の学校運営，教育活動の充実に資する。

2　活動内容

(1) 課題研究として，喫緊の教育課題について調査研究し，その成果を基に各部と連携して第10回仙台市中学校長会研究協議会の企画・運営に当たる。

(2) 新規研究として継続研究を「学校と地域の連携」と設定し，実践事例を収集してデータベース化を図る。

(3) 令和7年度東北地区校長会研究協議会において，仙台市が発表を担当する内容（「地域との連携・協働による『チーム学校』の実現」【全日中分科会協議題⑧】）を基に新規研究テーマを設定し，発表に向けた準備を進める。

3　活動の概要

(1) 4月3日(月)第1回部会(臨時校長会後)
- 副部長の選出
- 活動目標，活動内容の確認

(2) 5月23日(火)第2回部会(例会後)
- 研究推進の方針と研究の方向性の確認
- 継続研究及び課題研究についての検討
- 研究協議会の運営についての検討

(3) 5月29日(月)第3回部会(八乙女中)
- 課題研究のテーマ及びアンケート検討
- 継続研究の方向性確認

(4) 7月11日(火)役員会・例会
- 役員会にて，研究協議会に向けた事前調査アンケート実施を提案
- 例会にて，課題研究に関するアンケートを会員に依頼

(5) 7月27日(木)第4回部会(八乙女中)
- 課題研究に関するアンケートの分析及び発表テーマの検討
- 実践発表パネリスト，コーディネーター等の選定

(6) 8月22日(火)役員会
- 役員会にて，研究協議会の概要と持ち方について提案
- 実践発表パネリストの選定結果案及びパネリストへの発表と原稿依頼について提案

(7) 9月13日(水)第5回部会(八乙女中)
- 研究協議会の内容及び役割分担の確認
- 継続研究アンケートの内容検討

(8) 11月7日(火)第6回部会(八乙女中)
- 研究協議会に向けての準備・当日の運営等の確認
- 研究協議会事後アンケートの内容の確認
- 継続研究アンケートの役割分担の確認

(9) 11月30日(木)例会・協議会(ホテル白萩)
- 役員会にて，継続研究アンケート及び事後アンケートを提案
- 例会にて，アンケートを会員に依頼
- 第10回仙台市中学校長会研究協議会開催

(10) 1月16日(火)役員会・例会
- 役員会にて，2月例会研修の内容について提案

(11) 1月16日(火)第7回部会(例会後)
- 2月例会研修の準備・確認

(12) 2月6日(火)例会・研修会
- 研修会にて，研究協議会記録の報告と「学校運営協議会」に関する調査結果の報告及びデータベースの発表

(13) 3月1日(金)第8回部会(例会後)
- 令和5年度の取組の振り返り
- 令和6年度研究の方向性及び令和7年度東北大会発表に向けた準備計画の検討

＜研究部員＞

部長	齋藤亘弘	(八乙女中)
副部長	五十嵐秀樹	(南小泉中)
部員	熊谷祐晃	(七郷中)
部員	阿久津裕美	(山田中)
部員	鈴木裕太	(人来田中)
部員	松﨑雅威	(大沢中)
部員	山口善広	(秋保中)
部員	今野浩平	(南光台中)
部員	田中　充	(仙台青陵中等)

教　育　課　題　部

部長　　大　平　和　典

1　活動目標

学校内外でのより多面的かつ多様な教育改革が求められる中，真に本質的で喫緊の教育課題を見極め，実行可能な改善の推進に資する調査研究等を行い，学校運営に生かせるよう会員相互及び関係機関への真摯な提言としてまとめる。

2　活動内容

仙台市中学校長会活動方針を受け，今日的教育課題に関するアンケート調査・研修等を行った。

(1) 各課題への取組

【課題１】入試に関する課題と改善要望

私立・公立高連絡会や市高校教育課への資料提供と私学連合会並びに市県教委への要望案を作成した。

【課題２】学校運営協議会における運営と課題

仙台市立のすべての学校がコミュニティ・スクールとなり，その運営状況と課題について調査した。

【課題３】個別最適な学びと協働的な学びに関する指導の在り方

「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の答申を受け，今後の授業改善のための基礎資料とするために調査した。

(2) 防災・追悼集会 DVD 活用

東日本大震災から 12 年が過ぎ,記憶や教訓の風化を防ぐため，追悼集会の在り方や復興 DVD の効果的な活用等について継続した調査を行った。

3　活動の概要

各課題研修の実施。例会後の部会，C4th 活用で連絡情報共有し，負担軽減効率化を図った。

(1) 担当研修会等

①9/1（仙台市中学校長・私立高等学校長連絡会　Ｈ白萩）

ﾃｰﾏ：「不登校生徒の評価・評定の取り扱い」

話題提供　　幸町中学校　　大平和典

南吉成中学校　登嶋紀行

②１/16（研修会　教育Ｃ）※研修部と共催

主題「個別最適な学びと協働的な学びを推進するための管理職としての視点」

講師：太宰　明　主任指導主事

(2) 活動内容

① 4/27（校長会総会後　Ｈ白萩）

部員顔合わせ

② 5/23（5 月例会　教育Ｃ）

昨年度末実施の「東日本大震災追悼に係るアンケート調査」の結果報告

③ 6/1（臨時部会 教育Ｃ）

今年度活動方針の確認，調査課題の選定，役割分担の確認

④ 6/21

「入試に関するアンケート調査」発出

⑤ 8/22（8 月例会　教育 C）

「入試に関するアンケート調査」結果報告

⑥ 9/8

「個別最適な学びと協働的な学びの指導に関するアンケート調査」発出

⑦ 11/30（11 月例会　教育Ｃ）

「個別最適な学び等に関する調査」結果報告

⑧ 12/13

「学校運営協議会における運営と課題」（研究部発出）調査の集計

⑨ 2/6（研修会　教育Ｃ）※研究部主催

学校運営協議会に関する調査結果の報告と実践例発表

⑩ 2 月

次年度活動方針計画作成

「令和５年度震災追悼集会アンケート」発出

⑪ 3 月

「令和５年度震災追悼集会アンケート」集約

4　活動総括と今後の取組

学校を取り巻く環境は大きく変化しており，それに伴い教育課題が山積している。学校現場において，各学校の取組状況を知る各種アンケート調査の結果は，学校運営の際の校長判断の一助となったと思われる。今後も課題を精選し，有用な調査等を実施することが望まれる。

＜教育課題部員＞

部　長　大平　和典（幸 町 中）
副部長　登嶋　紀行（南吉成中）
部　員　清野　智子（鶴 谷 中）
部　員　布施　辰哉（八木山中）
部　員　東　　貴彦（根白石中）
部　員　遠藤　　滋（将 監 中）
部　員　大沼　良介（住吉台中）
部　員　保角真由美（広 陵 中）
部　員　猪股　智秋（附 属 中）

研　修　部

部長　　佐　藤　　全

1　活動目標

(1) 今日的な教育課題に即応した学校教育の改善を図るための研修の企画・運営を行う。

(2) 学校運営・経営の参考となる研修の企画・運営を行い，会員の資質向上を図る。

2　活動内容

(1) 各種研修の企画・運営を行い，会見相互の研鑽を深める。

(2) 例会時の研修の充実を図るとともに，部会内の分担に基づく計画的な運営を行う。

(3) 各部との連携により，教育の今日的課題を明確化し，解決の方策を探る研修を実施する。

3　活動の概要

(1) 5月23日（火）例会
第1回研修部会（年間計画・係分担）

(2) 7月11日（火）例会　第1回研修会
＜情報部との共催＞
「GIGAスクール構想の実現」
講師　教育指導課情報化推進係
新妻　浩平　指導主事
今野　　透　指導主事
石井　里枝　指導主事

(3) 7月28日（金）第1回新会員研修会
「学校運営について」
講師　総務部長　久世　達也　校長
「人事ヒアリング等について」
講師　人事部長　渡邉　哲也　校長

(4) 8月22日（火）例会　第2回研修会
「若手教員の育成・支援について」
講師　教育センター　岩倉　一治　主幹
「若手教員の指導力を向上させるための方策，校内組織づくりについて」
講師　教育センター　行場　啓悦　主査

(5) 9月26日（火）例会　第3回研修会
＜生徒指導部との共催＞
【不登校対策の現状と課題】
「自宅におけるICT教材活用した学習活動」
「フリースクール等民間施設との連携」
「スクールソーシャルワーカーの活用」
講師　教育相談課　いじめ不登校対策班
佐々木　宏　主幹

(6) 10月17日（火）第2回新会員研修会
「人事異動に係る校長の役割と実務について」
講師　人事部長　渡邉　哲也　校長

(7) 11月30日（木）例会　第4回研修会
＜研究部＞
第10回仙台市中学校長会研究協議会
「持続可能な教育活動・学校運営を目指して～これからの部活動の在り方～」
【パネルディスカッション】
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　山田中　阿久津裕美　校長
ﾊﾟﾈﾘｽﾄ　岩切中　糸谷　俊哉　校長
西多賀中　木下　裕士　校長
西山中　狩野富士子　校長
根白石中　東　　貴彦　校長
①　事例発表　　②　意見交換
［グループ協議］

(8) 1月16日（火）例会　第5回研修会
＜教育課題部＞
「個別最適な学びと協働的な学びを推進するための管理職としての視点」
講師　教育センター　学習指導支援班
太宰　明　主任指導主事

(9) 2月6日（火）例会　第6回研修会
＜研究部＞
「今年度の研究報告」

(10) 3月1日（金）例会
第2回研修部会
（今年度の反省と次年度計画案検討）

4　その他

中学校教育及び学校運営に係る課題を見極め，次年度も各部との連携を図りながら，学校経営に資する研修を実施していく。

＜研修部員＞

部　長	佐　藤　　全	（五 橋 中）
副部長	菅　野　勝　紀	（五 城 中）
部　員	吉　田　知　彦	（上杉山中）
部　員	狩　野　富士子	（西 山 中）
部　員	髙　橋　彰　吾	（寺 岡 中）
部　員	森　　和　子	（高 森 中）

人　事　部

部長　　渡　邉　哲　也

1　活動目標

(1) 人事に関する課題の解明と適正化に努める。
(2) 教育実習に関する調査及び協力を依頼する。
(3) 仙台市教育委員会への提言作成の協力をする。

2　活動内容

(1) 人事に関する調査を行い，現状と課題等を把握する。
(2) 人事上の課題を整理し，改善策を具申する。
　人事異動に関する調査（前年度3月）及び人事に関する調査（5月）の結果から，資料を作成する。
(3) 年2回の新会員研修会を実施する。
(4) 教育実習に関する調査を行い，市教委へ報告する。
(5) 市教委への提言の作成を，総務部と協力して行う。

3　活動の概要

(1) 4月3日(月) 第1回部会
　（臨時校長会後に開催）
・活動目標，内容，年間計画の確認
・R4人事異動に関する調査結果の共有
・R5人事に関する調査の役割分担

(2) 4月17日(月)
・R5人事に関する調査の依頼発出

(3) 5月23日(火) 5月例会（教育Ｃ）
・R4人事異動に関する調査結果の報告
　（教職員課へも提出）

(4) 6月5日(月) 第2回部会（中田中）
・R5人事に関する調査の分析及び研修

(5) 7月11日(火) 7月例会
・R5人事に関する調査結果の報告
　（教職員課へも提出）
・R5後期教育実習受け入れ可能数調査依頼
　（集約後，教職員課へ情報提供）

(6) 7月28日(金) 第1回新会員研修（教育Ｃ）
・人事に関する日程，ヒアリング，評価等

(7) 10月17日(火) 第2回新会員研修（教育Ｃ）
・人事異動の流れや留意点について
・各種報告資料の作成演習

(8) 11月6日(月)
・R5教育実習に関する調査依頼
　（C4thによる発出）

(9) 12月15日(金)
・R6前期教育実習受け入れ可能数調査依頼
　（集約後，教職員課へ情報提供）

(10) 12月19日(火)
・在仙大学教育実習等連絡協議会
　（リモートで出席）

(11) 1月16日(火) 1月例会（教育Ｃ）
・R5教育実習に関する調査結果の報告

(12) 1月16日(火) 第3回部会（教育Ｃ）
・R5人事異動に関する調査内容の検討

(13) 2月6日(火) 2月例会
・R5人事異動に関する調査の依頼

(14) 2月6日(火) 第4回部会
・今年度の反省と次年度の活動計画の検討

(15) 3月下旬　第5回部会（オンライン）
・R5人事異動に関する調査集約

＜人事部員＞

部　長	渡　邉　哲　也	（中田中）
副部長	間　山　裕　康	（宮城野中）
部　員	佐　藤　丈　春	（東華中）
部　員	中　村　晴　美	（六郷中）
部　員	廣　島　利　夫	（向陽台中）
部　員	菅　原　　徹	（長命ケ丘中）
部　員	中　田　　晋	（館　　中）

情　報　部

部長　　木　下　裕　士

1　活動目標

(1)　仙台市中学校長会 Web ページを管理・運用し，情報の共有及び広報活動に努める。

(2)　校長会運営に係るネットワークや ICT 活用のサポートに努める。

(3) 仙台市中学校長会「紀要」を編集・発刊する。

2　活動内容

(1) 仙台市中学校長会の Web ページ・ブログを管理し，適時更新する。必要に応じてサイトの構成等を改善する。

(2) オンライン会議や校務支援システム運用等のサポートを行う。

(3) 役員会・各部との連携を図り，資料の収集や情報提供・情報共有を行う。

(4) 仙台市中学校長会の諸連絡や研究調査等の記録，校長会案内文書，調査依頼等を Web ページの会員専用ページに掲載する。

(5) 仙台市中学校長会「紀要」を作成し，関係諸機関に配付するとともに，校長会の Web ページに掲載する。

3　活動の概要

(1) 第 1 回部会　　4 月 3 日(月)

・部員顔合わせ
・活動内容の確認
・活動計画（概要）の確認

(2) 第 2 回部会　　5 月 23 日(火)

・組織確認，役割分担確認
・連絡網確認
・活動目標設定，活動内容確認
・活動日程確認
・Web ページ更新研修
・ブログ更新研修
・Web ページ年度更新

(3) 第 3 回部会　　9 月 6 日(水)

・中学校長会「紀要」編集計画
・「紀要」編集役割分担，編集日程確認
・「紀要」原稿執筆依頼

(4) 第 4 回部会　　1 月 16 日(火)

・中学校長会「紀要」原稿全体編集
・「紀要」一次校正
・令和 5 年度の振り返り
・次年度改善案検討

(5) 第 5 回部会　　2 月 2 日(金)

・中学校長会「紀要」原稿二次校正
・「紀要」原稿業者発注
・令和 5 年度活動報告作成
・令和 6 年度活動目標・活動内容確認
・令和 6 年度活動計画作成
・令和 6 年度以降のブログ継続の審議

(6) 第 6 回部会　　3 月 1 日(金)

・中学校長会「紀要」関係機関配付
・中学校長会「紀要」Web ページ掲載

(7) 臨時情報部会　　※適時

・仙台市中学校長会資料収集
・仙台市中学校長会 Web ページ更新
・仙台市中学校長会ブログ更新
・情報提供資料の Web ページ掲載

(8) その他

仙台市中学校長会「紀要」の編集計画を見直し，原稿の様式や発刊までの段取りを改善した。

校長会 Web ページの構成を一部改善するとともに，校長会のお知らせや開催の様子を適時更新した。

＜情報部員＞

部　長	木　下　裕　士	（西多賀中）
副部長	澁　谷　広　司	（加　茂　中）
部　員	工　藤　　哲	（東仙台中）
部　員	桜　井　泰　実	（七北田中）
部　員	芳　賀　　亨	（南中山中）
部　員	大　内　　聡	（田　子　中）

行　財　政　部

部長　　山　家　　智

1　活動目標

(1) 学校運営に関する課題の解明と，適正化に努める。

(2) 財務内容について検討し，経理を適正に執行する。

2　活動内容

(1) 学校運営に関する調査を行い，提言・要望をまとめる。

(2) 年間予算案を提示する。

(3) 収入・支出状況の把握と，中間決算報告を行う。

(4) 決算報告を行う。

(5) 財務内容について検討し，次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3　活動の概要

(1) 臨時校長会　4月 3日(月)

・会務分掌　・年会費等の徴収について

・総会資料（会計）

・活動目標

・活動計画作成

・（新任・転入・再入会員宛）公務員賠償責任保険加入申込日の確認と年会費周知

・部会顔合せ　・部員の担当，連絡網確認

・教育公務員弘済会宮城支部の事業確認

(2) 校長会総会　4月27日(木)

・令和4年度決算報告及び監査報告

・令和5年度予算の提案

※総会要項に掲載

・校長会会費及び負担金等の集金

(3) 校長会5月例会・部会　5月23日(火)

・学校内の諸会計業務において市教委が導入したシステムを全学校で共通ツールとして使用していることから，各校の実情を共有し，研修の必要性等について検討した。

(4) 第73回東北中学校長会研究協議会福島大会行財政部7名 Web 参加　6月30日(金)

(5) 校長会7月例会・部会　7月11日(火)

・公務員賠償責任保険契約加入証配付

・教育研究助成金(9校へ各5万円）の確認

・会計中間監査会の案内

(6) 校長会8月例会・部会　8月22日(火)

・中高（私），中高（公）校長連絡会の負担金確認

(7) 会計中間監査会　9月19日(火)

・ホテル白萩において，会長，監事2名，行財政部長及び副部長，校長会事務局が参加。

(8) 校長会9月例会・部会　9月26日(火)

・会計中間監査会について報告及び小中合同懇親会会費の確認

(9) 校長会11月例会・部会　11月30日(木)

・仙台市中学校長会研究協議会

(10) 校長会1月例会・部会　1月16日(火)

校長会2月例会・部会　2月 6日(火)

校長会3月例会・部会　3月 1日(金)

・今年度活動計画の反省と次年度に向けての打合せ

・教育研究助成金についての打合せ

・公務員賠償責任保険加入手続きと年会費周知についての打合せ

(11) 令和5年度会計監査　3月12日(火)

4　集金等

3月28日(木)　継続会員に公務員賠償責任保険加入申込書配付

4月 3日(月)　新任会員等に公務員賠償責任保険加入申込書配付

4月27日(木)　令和5年度仙台市中学校長会会費・全日本中学校長会会費公務員賠償責任保険加入申込（専門代理店取扱）

9月 1日(金)　中高（私）連絡会

9月 8日(金)　中高（公）連絡会

11月30日(木)　小中合同懇親会

＜行財政部員＞

部長	山家　智	(広瀬中)
副部長	長沼洋美	(台原中)
部員	渡部健一	(第一中)
部員	八巻竜一	(郡山中)
部員	國分晋一	(桜丘中)
部員	飯田　毅	(吉成中)
部員	伊藤浩太郎	(南光台東中)

生 徒 指 導 部

部長　　千　葉　伸　治

1　活動目標

積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実
～生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～

・いじめ防止及び不登校対策の共有化
・ネットトラブル防止対策及び関係機関との連携強化

2　活動内容

(1) 生徒指導に関する諸問題の調査研究
(2) 関係機関との行動連携強化と研修の充実
(3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
(4) 特別な支援を要する生徒の理解と配慮の在り方に関する研修の充実
(5) 家庭・地域・関係機関等との連携による安全対策の推進
(6) 各学校の個別事案相談

3　活動の概要

(1) 第1回部会　4月3日(月)
① 部長・副部長の互選
部　長　千葉　伸治　(第二中)
副部長　白石　和也　(中山中)
② 活動目標，内容，活動計画，組織の検討，前年度活動の成果と課題についての確認，組織編成，担当分掌の活動計画の策定
・生徒指導班｛(1)(5)｝・研修班｛(2)｝
・特別支援班｛(4)｝・部長，副部長｛(3)(6)｝
③ 全市(各区)生徒指導連絡協議会，校外指導連盟，青少年対策六機関研修，小中学校生徒指導部合同部会の事業計画，運用の検討

(2) 第2回部会　5月23日(火)
仙台市青少年対策六機関・小中学校長会生徒指導部会合同会議の役割分担の確認

(3) 第3回部会　8月1日(火)
仙台市青少年対策六機関・小中学校長会生徒指導部会合同会議の開催

(4) 第4回部会　11月1日(水)
小中学校長会生徒指導部会合同会議の開催

(5) 第5回部会　1月16日(火)
次年度に向けての事業検討

(6) 第6回部会　3月1日(金)
本年度事業の成果と課題及び次年度事業の検討

4　研修

(1) 9月例会　9月26日(火)
「不登校対策について」(研修部と共催)
講師　教育相談課主幹　佐々木　宏　氏

5　関連事業

(1) 第40回生徒指導管外研修　(中止)
※新型コロナ感染拡大防止のため。

(2) 仙台市生徒指導主事連絡協議会
第1回　5月22日(月)
第2回　9月13日(水)
第3回　1月15日(月)
第4回　2月16日(金)
・全市，各行政区での情報交換
・関係機関からの助言と情報交換
・中総体，長期休業，高校入試等の対策

(3) 仙台市校外指導連盟
第1回　5月30日(火)
第2回　6月26日(月)
第3回　11月16日(木)
・長期休業中の校外での生徒指導と事故防止対策(水難・交通事故等)
・市中総体期間中の事故防止対策
・危険箇所確認　・児童生徒合同会議
・家庭との協働(青少年善導旬間等)

(4) 地域ぐるみ健全育成協議会
第1回　6月28日(水)
第2回　11月14日(火)
・生徒指導推進協力地区訪問

＜生徒指導部員＞

部　長	千葉　伸治	(第二中)
副部長	白石　和也	(中山中)
部　員	西海枝　恵	(八軒中)
部　員	猪股　一博	(高砂中)
部　員	糸谷　俊哉	(岩切中)
部　員	蓑輪　丈広	(北仙台中)
部　員	飯淵　優	(蒲町中)
部　員	藤田　義雄	(袋原中)
部　員	堀越　秀範	(折立中)
部　員	菊地　淳	(茂庭台中)
部　員	太田　博文	(松陵中)

２　調査研究等報告

（１）教育課題部

「高校入試に関するアンケート調査」

「授業改善に関するアンケート調査」

（２）研修部

「仙台市GIGAスクール構想の実現」

「若手教員の育成・支援」

「不登校対策の現状と課題」

高校入試に関するアンケート調査（７月実施）

中学校校長会　教育課題部

１．入試日程について

問：昨年度の公立・私立高校入試日程で良かった点や苦慮された点をお聞かせください。

【公立高編】

１．良かった点

〇感染症等への対応整備

〇（前後期選抜の）一本化による見通しを持った受験準備の実現

＜関連回答＞

・感染防止の観点から安心して生徒が受験できた。

・前期選抜、後期選抜が一本化された分、生徒も教員も見通しを持って準備を進めることができた。

・前年度からの感染症等への対応が定着し、受験生にとってもその点での不安はほぼなかったと思われる。

２．苦慮した点

〇入試日が月曜である懸念事項等への対応

＜関連回答＞

・受験日が追試験もどちらも月曜日だったが絶対に避けてほしい。感染症の状況によっては個別対応が難しいと思われる。受験生の不利益になりかねない。（同様 7）

〇入試事務日程等（生徒意向確認含む）の確保

＜関連回答＞

・私立高合格発表後、出願変更を迫られる生徒にとっては公立出願までの日程が短い。（同様 6）

〇その他

＜主な回答＞

・入試⇒卒業式⇒合格発表⇒二次募集⇒要録抄本等の送付が数日のうちに実施され、新年度の準備等に余裕がない。

・卒業式や復興プロジェクトの日程調整

・３月の早い時期は、できれば避けたい。

・12 日に卒業式を行い、13 日が追試日のため 14 日を振休とした。

【私立高編】

１．良かった点

〇一般入試の曜日設定

・火曜と木曜のセットはベストである。（同様 2）

〇その他

＜主な回答＞

・オンライン受験申込のトラブルが減ってきた。

・スマートホン等の持込方法が具体的に示された。

・感染防止がなされ生徒が安心して受験できた。

２．苦慮した点

〇休業明けから推薦入試日までが短期間であったことによる対応

＜関連回答＞

・冬休み明けすぐの私立推薦は、事前指導の日程が冬休み前になり、厳しい。（同様 5）

・推薦入試の日程が出願、発表ともに公立入試と比較して早すぎて進路決定者の卒業までの指導に苦慮する。入試、出願の日程が 1 週間繰り下がると準備の時間に余裕ができ負担軽減につながると思われる。

〇その他

＜主な回答＞

・当日朝雪の影響で、高校側で準備した送迎バスが予定より大幅に遅れて指定場所に到着した。この間何時に送迎バスが到着するかも分からず、受験生たちは試験が無事受けられるかどうかも分からず不安な時間を過ごした。送迎バスを高校側で準備していただくのはとてもありがたいことだが、送迎バスが遅れる場合等、中学校や受験生にその旨連絡を入れてほしい。

2. 公立高校について

問：公立高校の入試制度（共通選抜・特色選抜、第一次・二次募集など）で良かった点や苦慮された点をお聞かせください。

１．良かった点

〇配慮が万全（追入試・二次募集　コロナ対応等）

＜関連回答＞

・二次募集までを視野に入れて進路選択を考えている生徒・保護者が存在。二次募集は欠かせない。

・様々な配慮が必要な受験生に柔軟に対応していただき感謝。様式Ｐの記載例も分かりやすかった。

２．苦慮した点

〇特色選抜に関する対応（配点や選抜結果などの分かりにくさ、生徒・保護者への説明）

＜関連回答＞
・特色選抜について見えない部分があるのでせめて共通・特色のどちらで合格したのかわかるようにしてほしい。（同様多数）

〇旧態依然とした入試事務への対応（Web 出願導入の要望）

＜関連回答＞
・ほとんどの私立校や高専が Web 出願を取り入れている中で、保護者からも「公立高校でも Web 出願を」という声が上がっている。（同様多数）

３．全般について

〇Web 出願の導入要望（受検料の電子決済等）

＜関連回答＞
・Web 出願への変更をお願いしたい。私立高のみならず、全国的には公立でも Web 出願への移行が進んでいる。（同様多数）

〇共通選抜・特色選抜に関して

＜関連回答＞
・合格結果について、共通選抜・特色選抜どちらで合格したのかを示してほしい。進路指導をする上で、有益な情報になると思う。（同様 3）

〇その他

＜主な回答＞
・高校によって倍率の偏りが目立っており、定員割れしている高校は人材確保のために得点の低い生徒も合格せざるを得ない状況が見られる。これにより中学校の進路指導（査定）がしにくい状況が出てきている。
・利府高校のスポーツ科学科の募集要項および専攻実技の願書への記入について。　①独自の募集要項があるならば、入試事務説明会の際に『何日にどのように公表するのか』をもれなくわかるように提示をしてほしい。　②専攻実技について願書に記入をさせる必要があるならば、欄外ではなくあらかじめ記入する枠を用意しておくべき。
・10～12 月にもオープンスクールを行ってほしい。夏休み中だけでは、志望校が決まっていない生徒が参加校を適切に選べていない。
・問題が全体的に簡単になってきていると感じる。その結果、内申点が重要となる傾向が強まっているように思う。

３．私立高校について

問：昨年度の公立・私立高校入試日程で良かった点や苦慮された点をお聞かせください。

１．良かった点

〇Web 出願の定着

＜関連回答＞
・Web 出願が定着し、中学校の進路事務の業務改善に大きく役立っている。（同様多数）

〇細やかな推薦入試制度

＜関連回答＞
・推薦制度の拡充で、救われている生徒が多く大変感謝している。（同様 3）

２．苦慮した点

〇取扱業者ごとに Web 出願方法への対応を求められたこと

＜関連回答＞
・Web 出願を採用しているものの、各社（３社）の方法が異なるため、学校側の対応についても差異が出ている。統一していただくか、各社で同様な対応になるようにしていただきたい。（同様多数）

〇受験制度（特色）の複雑化に伴う対応

＜関連回答＞
・私立の中では第一希望、専願などの制度があるが私立高校によって制度名が異なるため、非常に分かりづらい。条件がかぶってしまう可能性があり点検作業に大変苦慮した。（同様多数）

〇保護者への対応

＜関連回答＞
・スポーツ特待生推薦で、高校側が示した基準に納得がいかず、最終的には高校の教頭先生に説明いただくということがあった。生徒や保護者とのやり取り、高校側との調整等業務量が多くなった。
・公立併願私立第一のような趣旨を出願フォームでも再確認して入力するシステムとしてほしい。単なる公立併願のつもりが私立第一となっていて合否発表後にトラブルとなったケースがある。もちろん、中学校側でもどのような出願をしているか確認するすべはあるが、担任の負担が大きい。願書を提出する保護者が判りやすいことを前提に、入力フォームを構築していただきたい。

〇受験要件への対応

＜関連回答＞

・一部の私立高校で、「評定不能」の場合、受験要件を満たさないことがある。公立高校同様、副申書などで対応できるようにしてほしい。(同様2)

３．全般について

〇Web 出願及び入試区分・名称等の統一を要望

＜関連回答＞

・Web での手続きは、ありがたいと感じているが、入力手続き後の手続きが学校によって違う。できる限りの統一をお願いしたい。(同様多数)

・「私立の第一」「公立併願」「併願」などの使い方を、市内の私立高で統一していただきたい。(同様多数)

〇その他

＜主な回答＞

・部活動推薦で合格した生徒の保護者からの苦情。高校の部活動顧問から、高校の部活の練習に参加してよいという旨の話をもらったにもかかわらず一向に連絡が来なかったため、保護者は中学校側が高校の部活動への参加にストップをかけているのではないかと疑念を抱いた。中学校ではそのようなことは一切しておらず、この件について教頭から高校に問い合わせを行ったところ、高校側の回答は「高校での方針が決まり次第連絡する」というものだった。高校の方針と関係なく顧問の裁量での発言が招いた案件と考えられる。生徒、保護者、学校の信頼関係を損ねることにもなりかねないことから、高校の部活動顧問は高校の方針を踏まえた上で対応に当たっていただきたい。

・オープンスクールやオープンキャンパスに参加した中学生に対して、安易に「中学校から校長推薦をもらえば大丈夫」等の発言をすることは控えていただきたい。

・育英の特待の推薦は、入試要項には詳細には載っておらず、後から文書で届いた。12 月中の内定や手続きの面で分かりにくいので、文書の内容を入試要項に載せてほしい。

４．コロナ・配慮事項関連について

問：昨年度の入試についてコロナ関連等の対応で苦慮した点があればお聞かせください。

＜主な回答＞

・生徒の症状がぎりぎりまで改善するかどうかが分からない場合の保護者とのやり取り。

・家族全員が陽性となり、願書の受け取りが締め切り当日の朝となってしまった。

・私立高校の入試の際、とても丁寧かつ迅速に対応していただいたので、とても感謝している。

・授業等で新型コロナウイルス感染症が拡大しないように（特に卒後式での合唱練習で）配慮をした。

・当日を迎えるまで、生徒が感染しないようにと祈るばかりだった。

問：高校入試におけるコロナ関連・配慮等についてご意見があればお聞かせください。

＜主な回答＞

・コロナで面接が受けられなかったが、書類選考により合格を頂いた。生徒・保護者のあせりを考えれば、ありがたい対応だった。

・推薦入試の際に、感染のため別日程で受験となった場合、合格発表の日もずれてしまうため、発表後の進路を検討する時間が十分とれなかった生徒がいた。

・今年度の公立高校の入試では第１次募集の学力検査日と追試日が近接している。コロナの出席停止期間を考えると、２次募集に回る生徒が例年より多くなることが心配される。私立の最終の入学手続き等において生徒に不利益が生じないように配慮してほしい。

・コロナで受験ができない生徒への配慮があったことは良かった。

・新型コロナウイルスへの対応が５類に移行したが受験生の感染時には前年度同様に複数の受験機会が与えられるとよい。またその対応は公私立で大きく変わらないものであることが望ましい。

５．その他

問：入試制度全般でご意見や、高校との連絡会で話題にしてほしいことや聞きたいことなどがあれば、お聞かせください。（具体的な表現で。）

〇進学を希望する高校の選択について

＜関連回答＞

・多様で魅力ある学校も増え、進路決定の優先順位が国立→公立→私立とは限らなくなってきている。国立が受かっても、私立・公立の受験をしてから考えたい生徒も出てきている。受験資格の表記等を見直していくべきではないか。それぞれの学校で作っている「進路の手引き」を、共通のところは統一したものとし、学校独自のところを付け足すようにできないものか。

・専願、第１希望で受験して合格した後、気持ちが変化し進学したくない生徒がいた場合、中学校では全体説明に加えて個別に説明済であり、高校が示す内容を伝える責任を果たしているはずである。その生徒の進学手続きに関する責任や対応はどうあるべきか、高校教育課や高校側の見解がほしい。高校によっては中学校長の顛末書提出を求められる。

・「公立入試の結果を見てから公立か私立か決定したい」「なぜ公立合格を辞退して私立を選んではいけないのか、明文化された根拠をはっきり示してほしい」という保護者が散見される。保護者に根拠として示せる文書があると助かる。

〇評定がつかない生徒の受験について

＜関連回答＞

・特別支援の必要な生徒、不登校の生徒の受け入れについて知りたい。

・評定がついていない生徒の出願数を知りたい。

・評定がついていない生徒が出願した際に、具体的にどのように選考するのかを教えてほしい。

・公立高において、いわゆる不登校の受験生で、評定欄が空欄の場合の処理をどうしているのか、実質的に「１」をつけた方が有利なのかどうか知りたい。また、副申書の取扱について、客観的な公平性の観点から、例えば一律不登校として扱っているなら、それなりの作成を行う。そのところを具体的に知りたい。調査書の内容の点数化について、高校ごとに取扱が違うのかもしれないが、一例でも知りたい。

〇進路及び入試事務の効率化について

＜関連回答＞

・各校からオープンスクール等の文書が多々届いているが、個別に連絡する依頼があるものの届く文書が校長宛のみとなっているケースが多くある。（特に公立）ぜひ配布用文書（保護者宛文書）を作成・送付していただきたい。

・高専の推薦入試合格の場合の「入学確約書」の提出について、中学校が通知を受けてから、用紙を合格者に渡し、保護者が記載した上で郵送することとなるが、あまりに日程が厳しすぎるため、学校・保護者への負担が大きくなる。

・入試制度の変更は、県私立連合会で取りまとめてほしい。

・Web 出願のシステム会社を統一してほしい。

・公立高校がわざわざ中学校に訪問に来るが、なくてもかまわない。

・私立合格発表からの公立高出願までの事務が忙しすぎる。出願期間も短く、校内の願書点検、調査書等作成委員会の実施、出願等を正味４日間で行った。

・入試事務にかなりの労力を費やしている。また、進路指導を経験していない若年層も増加している。入試事務をできるだけ簡略化してほしい。

・出願については、出願者自身による出願にしてほしい。中学校は、受験に向けた進路指導、調査書の作成という進路事務だけにし、その他の進路事務は、高校側にお願いしたい。現状では、中学校教員が願書の点検や受験者名簿の作成など、多くの進路事務を行っており、中学校教員の大きな負担となっている。「働き方改革」が叫ばれる中、本来高校がやるべきことと中学校がやるべきことを整理していかなければならないと思う。

＜そのほかの回答＞

・本試験が受験できなかったことにより、追試験を受験した人数（できれば合格状況）が知りたい。

・本試験、追試験及び第二次募集の日程で実施する追試験が受験できず、調査書等による書類審査になった人数を教えてほしい。

授業改善に関するアンケート調査（9月実施）

中学校校長会　教育課題部

1　調査目的

令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）を受け，今後の授業改善のための基礎資料とする。

2　調査方法

Google Forms により「令和５年度　仙台市中学校長会（教育課題部）アンケート」に回答

3　調査内容

令和５年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙・学校質問紙の中から抜粋した以下の質問項目

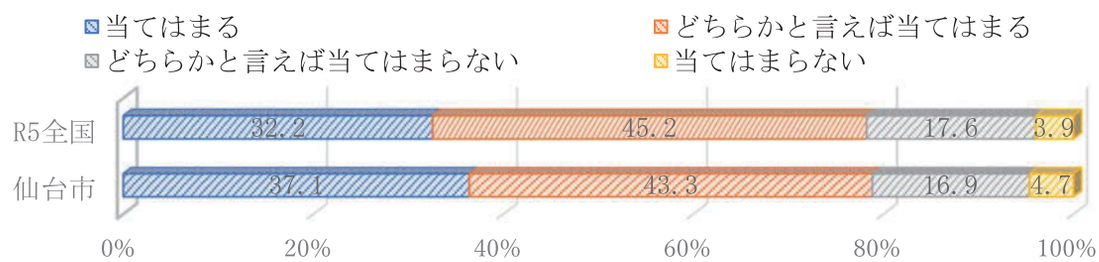
① 生徒質問紙 NO12，NO13，NO39，NO40

② 学校質問紙 NO27，NO31，NO32，NO33，NO65，NO68

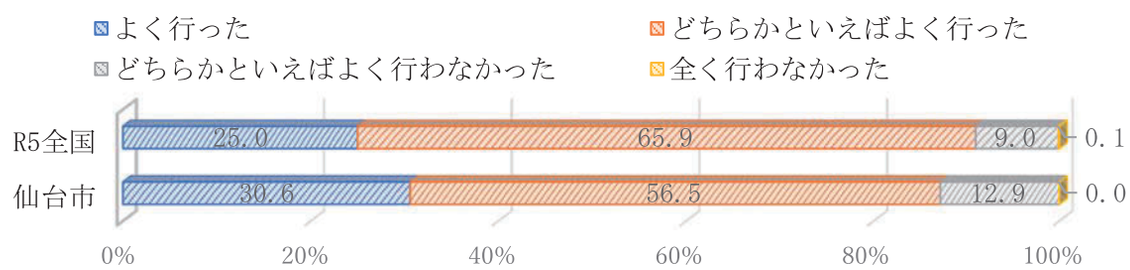
4　アンケートの結果

4－1　個別最適な学び（個に応じた指導）に関する状況

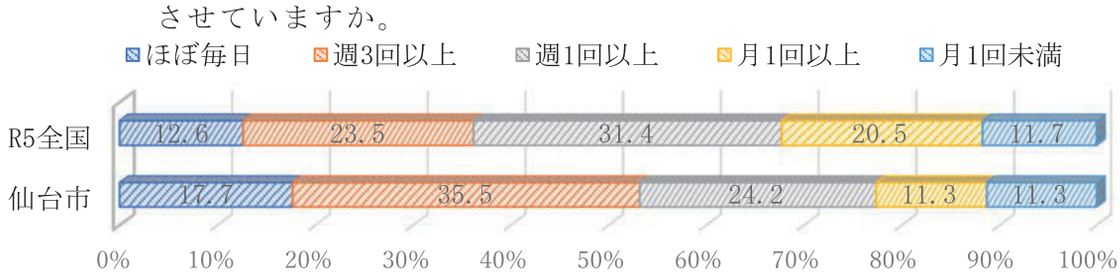
NO39 1，2年生の時に受けた授業は，自分に合った教え方，教材，学習時間などになっていましたか。

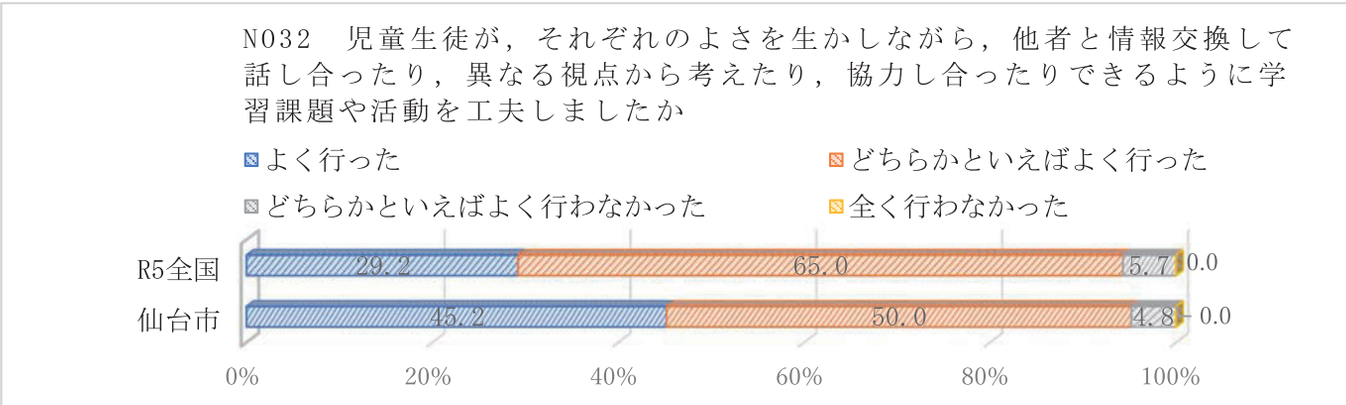


NO31　学習指導において，児童生徒の一人一人に応じて，学習課題や活動を工夫しましたか。



NO68　自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では，児童生徒一人一人に配備されたPCタブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。





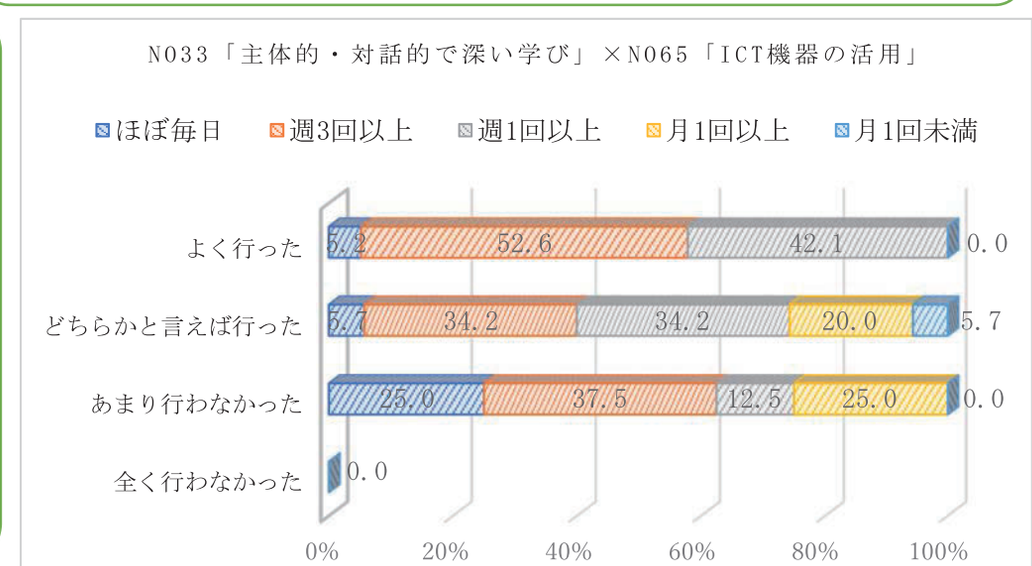
【考察】

・個別最適な学び（個に応じた指導）においては，生徒質問紙の結果から肯定的な回答が 80%を超えた。（全国値＋3 ポイント）
・学校質問紙においても，個別最適な学び（個に応じた指導）について，肯定的な回答が 87%であり実践していることが分かった。（全国値－3.8 ポイント）
・個別最適な学び（個に応じた指導）と ICT 機器の活用状況については，週 3 回以上使用していると回答した学校が 53.27%であった。（全国値＋16.5 ポイント）
・協働的な学びについては，肯定的回答が 95%を超えていた。（全国値＋1 ポイント）
・4 つのグラフから，仙台市において個別最適な学び（個に応じた指導）と協働的な学びを取り入れている傾向が見られる。また，ICT 機器を活用する頻度も高いことが分かった。

4－2「ICT 機器の活用」と「主体的・対話的で深い学び」との関係

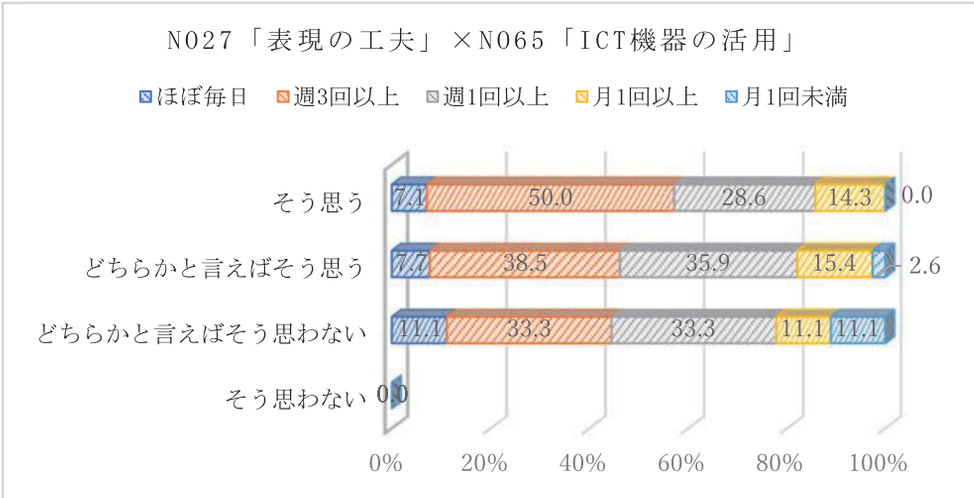
N065　児童生徒が自分の考えをまとめ，発表・表現する場面では，PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。

N033
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，発表する等の学習活動を取り入れましたか。



N027　児童生徒は，学校において自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して，発言や発表を行うことができていますか。

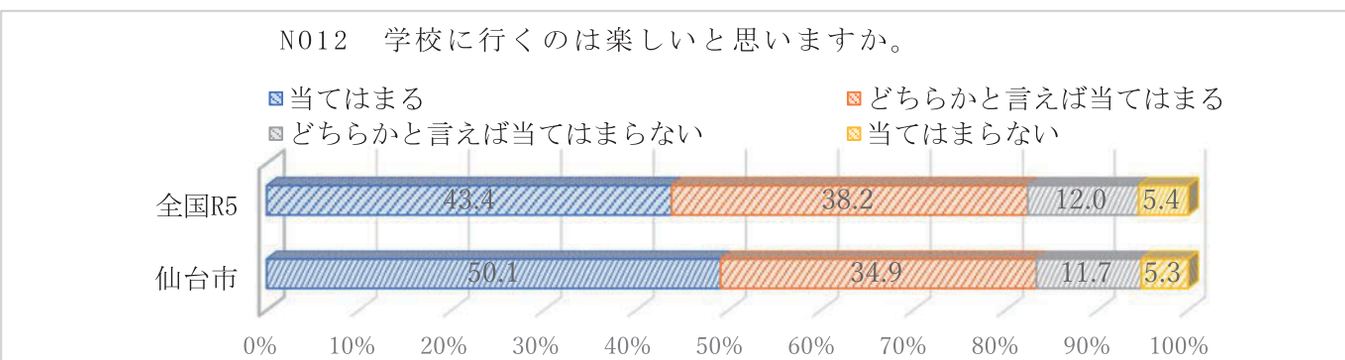
N065　児童生徒が自分の考えをまとめ，発表・表現する場面では，PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。

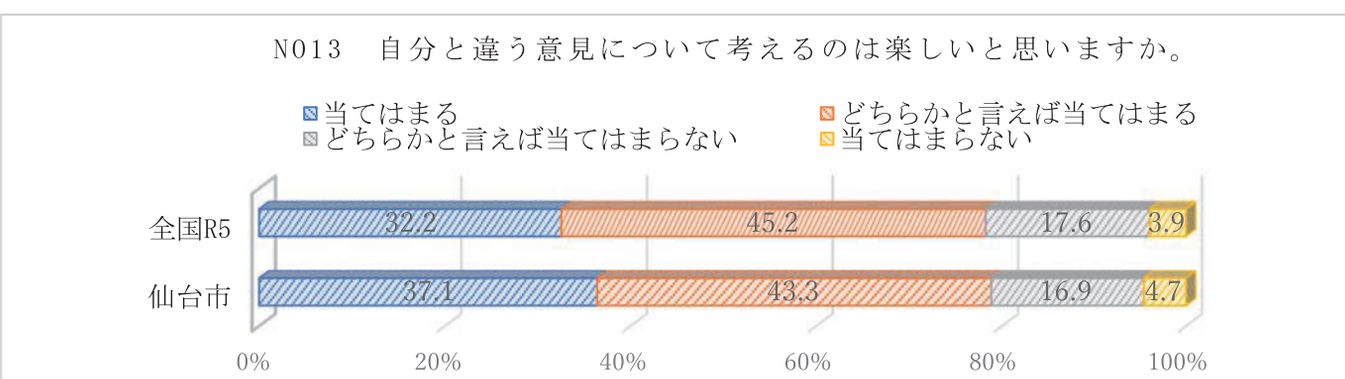


【考察】

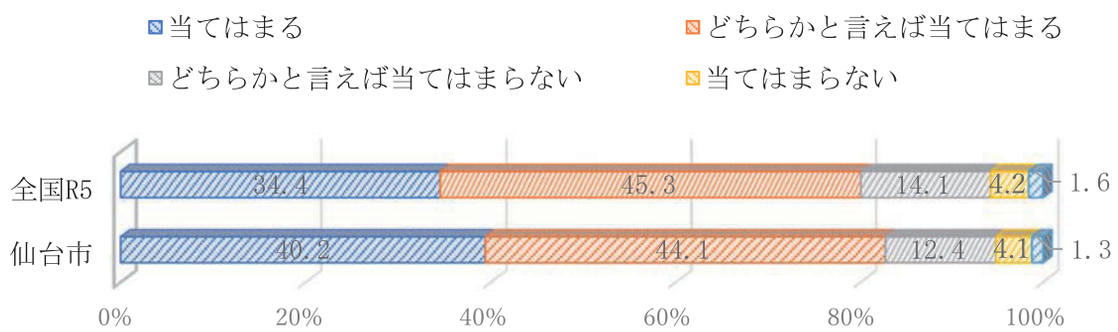
・N033×N065 のクロス集計より，主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた学校は，ICT 機器の活用頻度が高い。しかし，「あまり行わなかった」と回答した学校においても ICT 機器の活用頻度が高いことが分かる。
・N027×N065 のクロス集計より，分かりやすく発表できる生徒ほど，ICT 機器の活用頻度が高い。
・「主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた」や「分かりやすく発表すること」については，どちらも全国値＋5 ポイントである。

4－3　児童生徒の自己有用感，幸福感などに関する状況

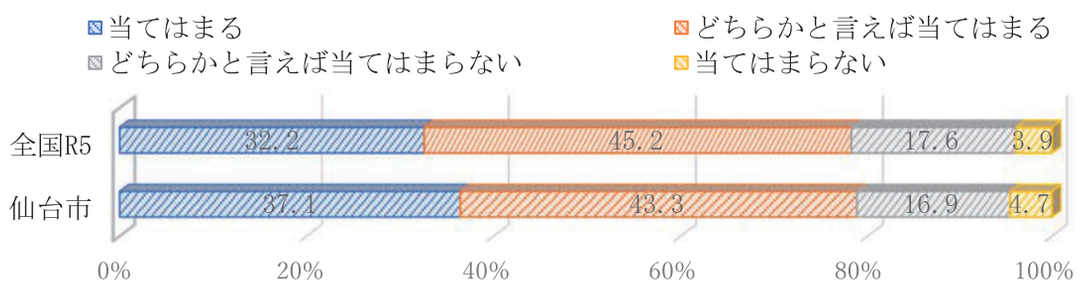




N040　学級との友達との間で話し合う活動をを通じて，自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。



N039　1，2年生の時に受けた授業は，自分に合った教え方，教材，学習時間などになっていましたか。



【考察】

- N013,N040 の結果から，自分と違う意見について考えることが，「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と肯定的な回答をした生徒が 80%を超えた。（全国値＋3 ポイント）また，話し合うことによって考えを深めたり広げたりできると肯定的な回答をした生徒は，84%を超えた。（全国値＋4.6 ポイント）協働的な学びを取り入れている傾向が見られ，その効果を上げていると思われる。
- N012,N039 の結果から，学校に行くのが「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」という肯定的な回答が 85%となった。（全国値＋3.4 ポイント）また，個別最適な学び（個に応じた指導）においては，生徒質問紙の結果から肯定的な回答 80%を超えた。（全国値＋3 ポイント）
- 文部科学省の結果では，個別最適な学びに関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問の間には，相関が見られるとしている。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが自己有用感等に影響を与えている可能性があると示している。

5　まとめ

今回，授業改善の基礎資料とすることを目的として，「個別最適な学び」と「協働的な学び」また，それに相関する項目について，アンケート調査を行った。これらの設問に対して，仙台市内の中学校の調査結果は，全国平均値を上回っていることが分かった。今後は，取組内容も調査できると有効であろう。

令和５年度　仙台市中学校長会　研修会の記録
日時　令和５年７月１１日（火）１４：１５～
場所　仙台市教育センター　第２・３・８研修室

GIGA スクール構想の実現

１．はじめに

国の「GIGA スクール構想」に対応し、本市でも１人１台端末の整備や校内通信環境整備が進んでいる。ICT を活用した教育を推進することで、たくましくしなやかに生き抜くための「情報活用能力の育成」、そしてデジタルドリルを活用した「個別最適な学びと授業改善推進」を目指すものである。

目指すものに到達するためには、端末に触れ操作し、どのような教育活動の可能性を導けるのか、校長自らが見通しを持つことが大事である。本研修は、そのきっかけとするためのものである。

２．研修概要

まず、学校番号順に３グループを編制した。用意された３つの研修室を２０分ずつで回る（３つの研修内容は以下に示したもの)。講師の指導の下、２人で１台の端末を利用し操作体験をしながら、より良い活用法を学ぶというもの。

(1) デジタルドリル（navima）について
(2) デジタル教科書について
(3) ロイロノートスクールについて

3. 研修の様子

(1) デジタルドリル（navima）について　＜第２研修室＞

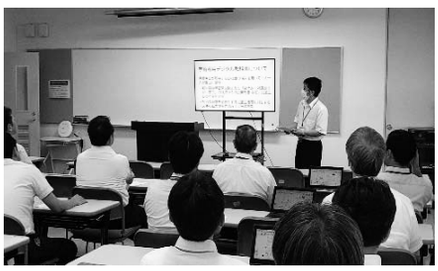
【講師】教育指導課情報化推進係　指導主事　新妻　浩平　氏

学習者に対し、最適化された学習内容により、効率的・効果的な学びが実現できるアダプティブドリルである。従来の授業で活用した一律な内容のワークシートではなく、学習者の異なる理解度や弱点に合った内容が選択でき、サポートも充実したものとなっている。

実際に社会の問題に取り組み、あちこちから新しい発見に沸く声があがった。

指導者から課題が配信できることや、解答の確認・採点・評価にも活用できること、また、課題の進捗状況が確認できることや、習熟度ヒートマップによって学習状況の把握も可能になることが分かった。

(2) デジタル教科書について　＜第３研修室＞
【講師】教育指導課情報化推進係　指導主事　今野　透　氏



令和５年度は、市内全小中学校に英語のデジタル教科書が導入されている。導入のメリットは端的にいうと「主体的で深い学びの実現」ということになるであろう。

実際に操作してみると、その有効性が理解できた。

□テキストの読み上げ→知りたいと思うタイミングで正確な発音を知ることができる。
□本文や図の拡大→より見やすさが増す。
□配色やフォントの変更→見え方に特性がある場合も、自分で最適化できる。
□QR コードの利用→リンク設定により知識が広がる。

「知りたい」という生徒の学習意欲に対して、リアルタイムに応え知識欲を満たせる利点がある。また、使いやすくカスタマイズする余地があることは、どのような生徒に対しても対応しやすくなるというメリットがあることが分かった。

(3) ロイロノートスクールについて　＜第８研修室＞
【講師】教育指導課情報化推進係　指導主事　石井　里枝　氏

思考力やプレゼン力を向上させることのできる「クラウド型授業支援アプリ」である。このアプリでできることは以下のとおり。

□学習ノートづくり　□協働学習
□思考ツール　□提出・回収・一覧表示

実際に「自己紹介カード」を作って提出するという課題に取り組んだ。２人１組となっているので、相談をして顔写真を入れたりメッセージを書き込んだりとそれぞれ工夫を凝らし作成し、出来上がったカードを提出箱へ。提出されたものが一覧表示され、出来栄えを比較してあれこれと会話が弾んだ。

思考を助け、その考えを人に伝えるという一連の流れは、「対話的」であり「深い学び」の実現へとつながる道筋であると感じた。授業では「目的」「内容」を明確に持って、一つの学習ツールとして活用していく意識が必要であろう。

４．おわりに

ICT を活用した教育を推進するためには、教員の ICT 活用指導能力を高める必要がある。知らなければ、効果的な活用法を見出すことはできない。校長として、校内の ICT 活用における支援体制を見直し、まずはやってみるという意識改革、そして活用の「目的」や「内容」を明確にして実施していく実践力の重要性を再確認した。

令和５年度　仙台市中学校長会　研修会の記録
日時　令和５年８月２２日（火）１４：１５～
場所　仙台市教育センター　大研修室

研修Ⅰ　若手教員の育成・支援について

講師　仙台市教育センター　主幹　岩倉　一治　氏

１　育成について

（１）　教育職員の年齢層から

全体の３分の１が 34 歳以下の教育職員になっている。職員室の約３割は教職経験 10 年未満。退職者数に大きく影響され、30 代半ばから 50 代半ばのミドルリーダー層が極めて少ない。特に中学校においては顕著。定年延長の要素はあるが、しばらくはこの傾向は続くと思われる。先輩教員一人当たりの若手教員の数が以前より多くなっており、指導や支援を受ける時間が少なくなっていると思われる。また、採用試験の倍率も下がっていること、講師登録者数の減少などについても懸念される。このことからも若手教員の育成・支援は重要な課題となっている。

（２）　市教委の取組

各課で「養成」「採用」「育成」とした一貫した取組をこれまで実施してきた。大学等との連携・若手教員に求められる姿（着任時）フレッシュ教員研修など各課がそれぞれに事業を展開し、その各課の実績や得られた情報を市教委として集約できる体制を構築し、学校に還元できればさらに充実した若手育成ができると考えている。

（３）　若手育成プロジェクト

教職員課が事務局となり、各課の主幹が委員となりプロジェクト会議を実施し、若手の育成・支援にかかる情報の共有や育成・支援方法についての検討、連携した学校訪問を行ない、若手の支援を行なっていく。そして、教育センターが事務局となり若手育成支援チームを構成し育成及び支援にあたっている。

２　支援について

- 若手育成の現状を共有
- 管理職への若手育成にかかる研修の充実
- 若手教員の実情を踏まえた研修の充実
- 課題が見られる教員への連携した支援
- 若手教職員（１～５年次）や任期付教員、臨時的任用教員への校内における先輩教員による OJT

研修Ⅱ　若手教員の指導力を向上させるための方策、校内組織づくりについて

講師　仙台市教育センター　若手教員支援室　主査　行場　啓悦　氏

１　若手教員支援室の役割

令和４年４月教育センター内に若手教員支援室が設置され、若手教員の様々な困り感を把握し寄り添った支援をしてきている。

２　支援室関係業務１「新規学卒者等サポート計画訪問」

新規採用教諭、任期付教諭・臨時的任用職員・会計年度任用職員の新規学卒者等を対象として、令和５年５月１日から令和５年６月 30 日の期間で実施。小学校 189 名（93 校）、中学校・特別支援学校 96 名（47 校）

【面談での対象者の声（抜粋）】

- 授業以外の業務の多さに驚いている。
- 様々な家庭環境がある中での保護者対応が大変。
- 一日の生活の流れがつかめず苦労した。
- 周りの先生方がとても忙しそうで、聞くタイミングを逃してしまう。

３　支援室関係業務２「新規学卒者等サポート要請訪問」

学級経営及び授業づくり、メンタルヘルス等の個別相談を実施し、指導力の向上や教職への定着を図ることを目的とし、内容は、当該教員の授業参観及び面談、校長との面談を行う。令和５年９月１日から令和６年２月 29 日の期間で実施予定。

４　支援室関係業務３「新規学卒者等サポート研修」

対象者は、育休代替任期付教諭の新規学卒者等及び臨時的任用職員の新規学卒者等で、第１回目は令和５年４月 28 日に実施し、第２回目は令和５年９月 29 日に実施予定。

５　支援室関係業務４「（採用・任用前）新規採用プレゼミナール」

社会人としての心構えをはじめ、学級づくりや授業づくり、子供との接し方など、年度始めに必要な初歩的な事柄を学ぶ機会とし、着任までの不安を少しでも減らすことで、学校生活に安心して臨めるようにサポートをする。今年度は、令和５年 11 月から令和６年３月までの期間で、昨年度と同様に全８回実施予定。教員採用候補者名簿登載者及び任期付教員採用候補者名簿登載者、講師登録者並びに登録予定者が対象（希望制）。

令和５年度　仙台市中学校長会　９月研修会の記録
日時　令和５年９月２６日（火）１４：１５～
場所　仙台市教育センター　大研修室

「不登校対策の現状と課題」

講師　仙台市教育局教育相談課　主幹　佐々木　宏　氏

１　本市の不登校生徒の現状について
（令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）

(1)　仙台市不登校児童生徒数推移

児童生徒数	H29	H30	R1	R2	R3
小学校	３５９	３９２	５０１	５０２	７１４
中学校	１，２１０	１，２７６	１，３７６	１，１６６	１，５０４

(2)　不登校の要因（中学校）

	R2		R3	
	①主たるもの	②主たるもの以外	①主たるもの	②主たるもの以外
いじめ	７	２	８	０
いじめを除く友人関係をめぐる問題	１７２	８４	１９７	１０７
教職員との関係をめぐる問題	１５	１２	２５	３７
学業不振	１０８	２４９	１３５	２９６
進路に係る不安	８	３９	８	４２
部活動への不適応	１８	３０	１７	３３
学校の決まり等をめぐる問題	６	１５	７	１９
入学・転編入学進級時の不適応	７８	３１	９８	６５
家庭生活環境の急激な変化	４１	２５	３３	３０
親子の関わり方	５０	１７１	４８	１８０
家庭内不和	１９	５６	２６	７３
生活リズムの乱れ，あそび，非行	１２３	１６８	１９２	２２０
無気力・不安	３５８	２７９	５３８	３５６
上記に該当なし	１７５		１７５	

(3)　調査結果から

・不登校の背景要因は複数が絡み合っている現状
「不登校」の背景にある多様な「問題」
いじめ，発達的な生きづらさ，学業の難しさ
友人や教師との人間関係，部活動の悩み
ゲーム依存，精神病理，トランスジェンダー
虐待，貧困，ヤングケアラーなど

↓

複数の目によるアセスメントと複数の手による支援が必要

・不登校は，様々な児童生徒のニーズの表出
①対策には，より専門的なアセスメントに基づく支援が求められる。
（専門性に基づくチーム体制）
②対策には，児童生徒の様々なニーズを充たす環境の整備が求められる。
（学校風土づくり）

２　自宅におけるＩＣＴ教材を活用した学習活動について

【出席扱いの要件】

(1)　学校と家庭との連携

・おおむね１か月に１回以上，当該児童生徒の情報交換を行うなど，連携・協力体制が保たれている。

・当該児童生徒や保護者に，学校外の公的機関や民間施設について情報提供を行っている。

(2)　学習プログラム等の作成

・在籍校の年間指導計画に沿って，ある程度長期的な学習プログラムを作成している。

・ＩＣＴ等活用の支援計画を用いて，学校と家庭との間で目標や支援方針を共有している。

(3)　ＩＣＴを活用した学習内容

・当該児童生徒が，民間業者が提供するＩＣＴ教材や通信教育教材を活用した学習，ＩＣＴ機器を活用し，在籍校の授業を自宅にて配信して行う学習，または，学校が作成した学習プリント等を自宅で活用している。

(4)　定期的，継続的な対面による指導

【学習活動の評価について】

出席扱いとした場合，必ずその成果を評価に反映しなければならないわけではないが，全ての教科が，観点について観点別学習状況及び評定を記載できない場合でも，自宅における学習状況を所見欄に文章記述するなど，次年度以降の指導に生かす観点から適切な記載が望まれる。

【指導要録への記入について】

自宅においてＩＣＴ等を活用した学習活動を行った日数を出席扱いとした場合，以下のように記載する。

（例）　自宅においてＩＣＴ等を活用し，出席とした日　〇〇日

３　フリースクール等民間施設との連携について

(1)　不登校児童生徒がフリースクール等民間施設に通所している場合の「指導要録上の出欠の取り扱い」について

・指導要録上，出席扱いと認めるかどうかについては，校長が教育委員会と最終協議を行い，総合的に判断する。

・令和５年度仙台市適応指導センター事業概要に掲載

(2)　令和５年度「指導要録上の出欠の取り扱い」が可能な民間施設

・フリースクール等民間施設（Ｒ５．９．１５現在）２２施設
子ども若者相談支援センターふれあい広場，ＮＰＯ法人アスイク，ふれあい広場サテライト，宮城県子ども総合センターデイケアについては，公的施設に準ずるため，出席を認める施設

４　ＳＳＷの活用について

(1)　ＳＳＷの職務

①問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け

②学校内におけるチーム体制の構築・支援

③関係機関とのネットワークの構築・連携・調整

④不登校，いじめや暴力行為等問題行動，子どもの貧困，虐待等が発生した際の援助

(2)　支援開始までの流れ

情報整理→派遣要請→日程調整→学校訪問→支援開始

(3)　ケース会議を活用した支援の流れ

アセスメント→プランニング→プランの実行→振り返り・見直し

(4)　不登校での活用ケース

・家庭環境に関係機関が情報共有して登校を支援したケース

・不登校傾向を示した児童と母親を支援したケース

・保護者や児童生徒と連携が図りにくいケース

発　行　　令和６年３月１日

発行者　　仙台市中学校長会
　　会長　　本　木　一 昭

編　集　　仙台市中学校長会情報部